

P17

小児歯科における子育て支援の試み（第2報）
～育児支援チェックリストの調査結果について～

○ 原田靖子、高瀬ルミ子、西田由起子、
旭爪伸二
(わかば小児歯科 宮崎市)

【目的】

厚生労働省によると、平成22年度は児童相談所における児童虐待相談対応件数が55152件と、東北の一部を除いた調査であったにもかかわらず、前年度と比べて約12000件も増加した。増加の背景には、母親の育児不安などの心の問題が影響しているといわれている。そこで、2歳以下の子どもを連れて来院された母親を対象に、育児支援チェックリストを用いて母親の育児不安について調査したので報告する。

【対象と方法】

平成23年9月10日から10月14日の間に2歳以下の子どもを連れて来院された20代（25名）30代（96名）40代（6名）無記入（2名）の母親129名を対象に育児支援チェックリストを用いて調査を行い、「はい」「いいえ」の回答を得た。質問内容は下記のとおりである。

質問1：今回の妊娠中に、おなかの中の赤ちゃんやあなたの体について、または、お産のときに医師から何か問題があるといわれていますか 質問2：これまでに流産や死産、出産後1年間にお子さんを亡くされたことがありますか 質問3：今までに心理的な、あるいは精神的な問題で、カウンセラーや精神科医師、または心療内科医師などに相談したことがありますか 質問4：困ったときに相談する人についてお尋ねします ①夫には何でも打ち明けることができますか ②お母さんには何でも打ち明けることができますか ③夫やお母さんの他にも相談できる人がいますか 質問5：生活が苦しかったり、経済的な不安がありますか 質問6：子育てをしていく上で、今のお住まいや環境に満足していますか 質問7：今回の妊娠中に、家族や親しい方が亡くなったり、あなたや家族や親しい方が重い病気になったり事故にあったことがありました

か 質問8：赤ちゃんが、なぜむずがったり、泣いたりしているのかわからないことがありますか 質問9：赤ちゃんを叩きたくなることがありますか

【結果および考察】

質問1～3は出産前の母親の切迫早産や喪失体験、心理的ストレスなどを聞いており、「はい」の回答がそれぞれ12%、25%、4%だった。質問4の身近に相談できる人についての質問では、夫より実母に相談することができない母親の方が多かった。質問5～7では出産後の子どもへの愛着形成の障害、不満足な住環境、育児困難な状況に対して母親の気持ちの確認を聞いており「はい」の回答がそれぞれ15%、20%、16%だった。質問8、9では赤ちゃんへの拒否感、嫌悪感、ストレスなど、ネグレクトや身体的虐待につながるリスクを聞いている。「はい」の回答がそれぞれ37%、22%だった。

当院での子育て支援の流れ



今回、子育てに関する質問票をお願いするにあたって、小児歯科へ通院される母親でも比較的正直に回答してくれているのではないかと推察された。当院では本質問票と第一報のEPDSを一緒にお願ひし、表の流れに沿ってEPDS9点以上の母親を対象に、本調査結果も併せて参考にしながら面談を行っている。地域の中で子育てに関わる多職種連携・協働体制があることが望ましいが、歯科医院でも育児相談の体制をつくることは可能であり、早期の産後うつ病や虐待予防に繋がることができるのではないかと考えている。

【文献】

1) 吉田敬子 他：産後の母親のメンタルヘルスと育児支援マニュアル、平成16年度厚生労働科学研究2004.